

2026年12月期中間期 決算説明資料

ダイナパック株式会社

2026年8月26日



**Only One
Package**

包装への想いとこだわりを
大切に時代の一步先を行く
付加価値の高い
パッケージングサービス
をご提供します

- 01** — **会社概要**
- 02** — **事業内容**
- 03** — **2026年12月期 中間期決算概要**
- 04** — **2026年12月期 通期業績予想**
- 05** — **中期経営計画（2024年～2026年）進捗状況**
- 06** — **配当について**

商 号 **ダイナパック株式会社**

資 本 金 **40億円**

代 表 者 **代表取締役社長 齊藤 光次(Saito Koji)**

設 立 **2005年(平成17年)1月**

所 在 地 **〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦三丁目14番15号 カゴメビル7階、8階(受付)**

連 絡 先 **TEL : 052-971-2651 FAX : 052-968-2395**

従 業 員 数 **2,546名(2026年12月期中間連結)
657名(2026年12月期中間単体)**

事 業 内 容 **段ボール、紙器、軟包装材および紙製緩衝材などの包装資材の製造、販売**

包み、届け、ひらく。

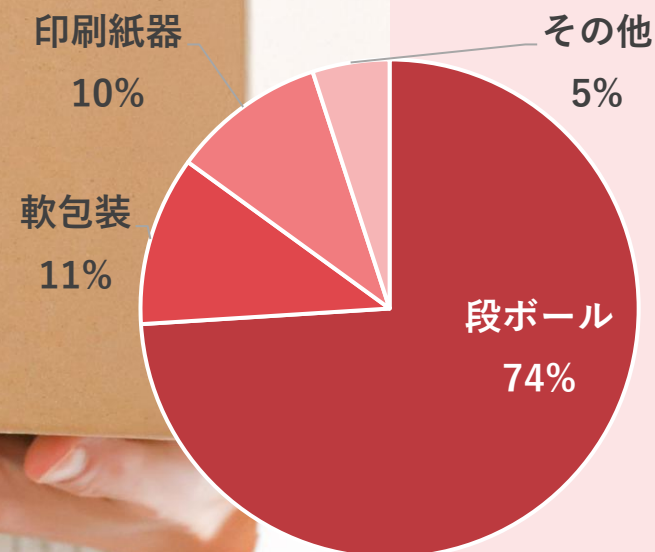
その手に何かが届く。
誰もが開ける前から
期待で胸がふくらむ。
きっとそこに
これからを彩る新しい可能性が
込められているから。
心が動く。
笑顔がこぼれる。
だから自分も想いを包んで
人に届けたくなる。
私たちは
いつの時代も未来に向けて
人がいちばん大切にしているものを
心を込めてつないでいく。

包装材関連事業

段ボールシート、段ボールケース、印刷
紙器および軟包装材などの包装資材
の製造・販売

売上構成比率

99.5%



決算サマリー（中間期累計）

売上高・営業利益・経常利益はいずれも過去最高を更新。

価格改定効果、生産性改善、M&A効果などにより大幅増益。

売上高

363億円

前年同期比
+15.1%

営業利益

20億円

前年同期比
+42.8%

経常利益

26億円

前年同期比
+45.8%

親会社株主に帰属する
中間純利益

18億円

前年同期比
+5.5%

包装材関連事業売上高

382億円

前年同期比
+15.0%

不動産賃貸事業売上高

2億円

前年同期比
+2.2%

増収・増益の主な要因

- ✓ **国内販売**
青果物・加工食品向けを中心に販売数量が増加
- ✓ **生産性改善**
生産性向上の取り組みが利益拡大に寄与
- ✓ **価格改定**
製品価格改定が着実に進捗し、収益性が改善
- ✓ **海外・M&A**
ベトナム販売の回復とM&A効果が寄与

※セグメント売上高にはセグメント間取引を含む

損益計算書（P/L）

売上高・各利益ともに期初予想を上回って着地。

営業利益および経常利益は期初予想を50%以上上回り、ともに過去最高を更新。

中間純利益は、前年の多額の有価証券売却益の反動があるなかでも増益。

(百万円)	2025年12月期	2026年12月期	前年同期比	期初予想	期初予想比
	中間期	中間期		中間期	
売上高	31,594	36,376	+15.1%	35,000	+3.9%
営業利益	1,417	2,023	+42.8%	1,300	+55.7%
経常利益	1,800	2,624	+45.8%	1,700	+54.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,763	1,860	+5.5%	1,100	+69.1%

貸借対照表 (B/S)

総資産は、現金及び現金同等物の増加などにより、前期末比33億円増加の884億円。

純資産は前期末比25億円増加の504億円、自己資本比率は55.9%と健全な財務基盤を維持

(百万円)

	前期末	当中間期末	
	2025年12月31日現在	2026年6月30日現在	前期末比
流動資産	30,613	32,192	+5.2%
固定資産	54,494	56,226	+3.2%
資産合計	85,107	88,419	+3.9%
流動負債	30,118	30,479	+1.2%
固定負債	7,044	7,441	+5.6%
負債合計	37,162	37,920	+2.0%
純資産合計	47,944	50,498	+5.3%
負債純資産合計	85,107	88,419	+3.9%
自己資本比率	55.1%	55.9%	+0.8pt

キャッシュフロー

営業CFは23億円の収入、投資CFは設備投資等により12億円の支出。

現金及び現金同等物の中間期末残高は、前期末の51億円から15億円増加し66億円。

(百万円)	2025年12月期	2026年12月期
	中間期	中間期
営業活動によるCF	3,347	2,397
投資活動によるCF	△85	△1,260
財務活動によるCF	△2,112	365
現金及び現金同等物に係る換算差額	△98	63
現金及び現金同等物の期首残高	3,921	5,100
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,972	6,666

2026年12月期 通期業績予想

中間期の業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正。

売上高750億円、営業利益42億円、経常利益48億円、当期純利益34億円を見込む。

国内外の業績が想定を上回って推移し、売上高および各利益はいずれも過去最高を見込む。

(百万円)

	前回発表予想 2026年2月13日	今回修正予想 2026年8月7日	修正額	増減率	(ご参考) 前期実績 2025年12月期
売上高	73,000	75,000	+2,000	+2.7%	67,083
営業利益	3,100	4,200	+1,100	+35.5%	2,878
経常利益	3,600	4,800	+1,200	+33.3%	3,554
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,500	3,400	+900	+36.0%	3,179

中期経営計画達成見込み

今回の上方修正後の通期業績予想では、中期経営計画に掲げた財務定量目標をすべて達成する見込み。

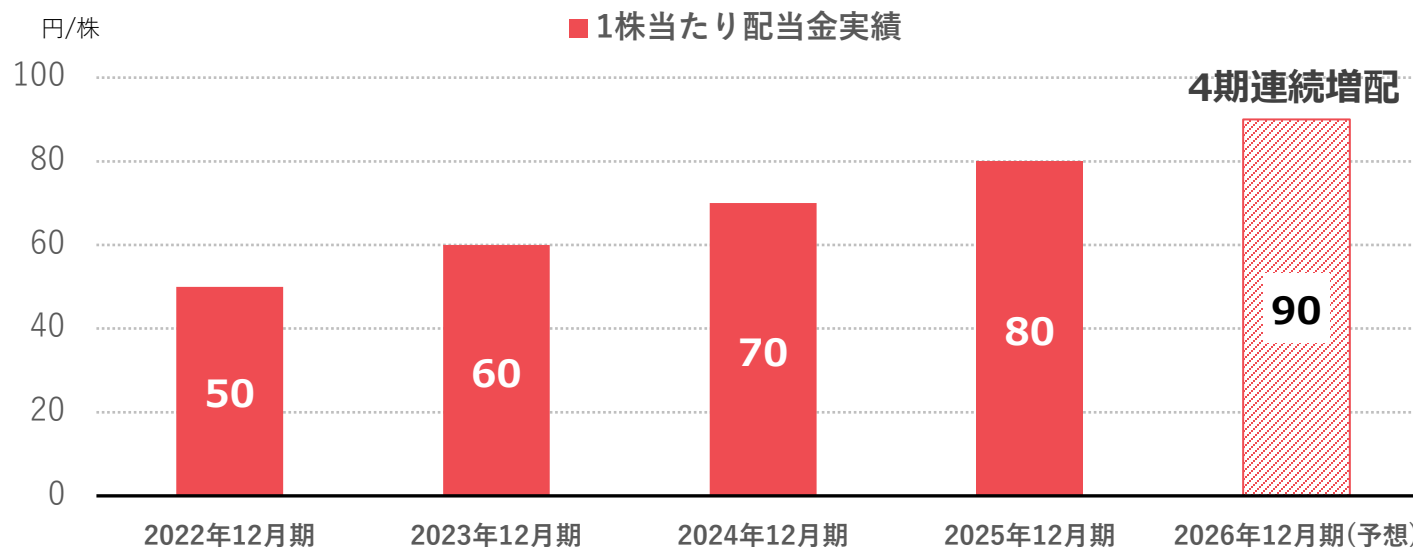
(百万円)

	2024年12月期	2025年12月期	中期経営計画最終年度 2026年12月期		中計目標比
	通期	通期	目標値	通期業績予想 26/8/7発表	
売上高	62,530	67,083	70,000	75,000	+5,000
営業利益	1,713	2,878	3,000	4,200	+1,200
営業利益率	2.7%	4.3%	4.3%	5.6%	+1.3pt
ROE	6.7%	6.9%	5.0%以上	6.5%以上（予想）	目標を上回る

※2026年12月期ROEは、当期純利益予想等をもとに当社試算

配当金の推移

安定的かつ継続的な利益還元を基本方針に、資本コストを意識した株主還元を実施。
業績予想の上方修正などを踏まえ、期末配当予想を10円増配の90円に修正。4期連続の増配を見込む。
本業の収益力の着実な改善を土台とし、PBR向上に向けた市場の期待に応える還元姿勢を継続。



配当性向

30.8%

37.1%

23.4%

25.0%

25.8%

本資料の取り扱いについて

本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予測に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予測に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報、成長余力及び財務指標並びに予測数値が含まれます。将来予測に関する記述は、あくまでも当該記述がされた時点におけるものであり、将来変更される可能性があります。将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績や実績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績や実績は当該記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。当社は、財務上の予想値の達成可能性について明示的にも默示的にも何ら保証するものではありません。

また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。

本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれています。

本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な経済動向に関する統計情報及び調査結果、外部情報に由来する他社の情報が含まれています。当社は、これらの情報に由来する情報の正確性及び合理性について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてもその正確性及び合理性を保証するものではありません。また、他社に係る事業又は財務に関する指標は、算定方法や基準時点の違いその他の理由により、当社に係る同様の指標と比較対照性が無い可能性があります。

IRに関するお問い合わせ

ダイナパック株式会社 経営企画室

TEL 052-971-2651

URL <https://www.dynamapac-gr.co.jp/>